2015年11月号　　11月15日（日）発行

釧路湿原国立公園　　温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 230

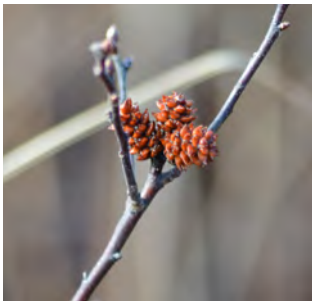
足早に通り過ぎる秋…

発達した低気圧が相次いで通過し、染まり始めた木々の葉は吹き飛ばされ、しみじみと秋を楽しむ前に紅葉は終わってしまいました。光を受けて輝いていたヨシの穂綿も飛ばされ、湿原は荒涼とした雰囲気です。
翅のすり切れた赤とんぼが弱弱しくしく飛んでいました。
そろそろ冬の気配です。

☆☆☆温根内ビジターセンター　探勝木道周辺の自然情報☆☆☆

～温根内探勝木道周辺の自然～

【ホロムイツツジ（花芽）】
ツツジ科　幌向躑躅
ミズゴケ湿原で見られる低木です。枝先をよく見ると来春咲く花の芽が並んでいます。花が咲くのは4月下旬から。絶滅危惧ⅠＢ類（EN）



【ヤチヤナギ（実）】
ヤマモモ科　谷地柳
ミズゴケ湿原で見られる目立たない落葉低木です。実だけでなく、４月下旬に咲く花も非常に目立たない姿をしています

【やちぼうず】　谷地坊主
夏の間は周りの草に隠れて見えませんでしたが、秋になると姿を現します。正体は叢生したカブスゲの根が盛り上がったもので、鶴居軌道跡やハンノキ林で見られます。

【ヤチダモ（実）】
モクセイ科　谷地櫛
湿原周辺のやや湿った場所で見られ、翼（よく）の付いた細長い実を付けます。実は風を受けてクルクル回り、遠くへ運ばれます。

【ツルウメモドキ（実）】
ニシキギ科　蔓梅擬
蔓性の木本で他の樹木に絡まりながら生長します。実の中にある朱色の部分は仮種皮（かしゅひ）で、種子の付属物です。

【エゾアカガエル】
アカガエル科　蝦夷赤蛙
鶴居軌道跡沿いの湧水地で落ち葉をどかすと、じっとして動かない姿が見られます。このまま皮膚呼吸しながら冬眠し、春を待ちます。

○表紙の写真　上：ヨシ湿原と木道　中右：アキアカネ　中左：ガマ（果穂）　下：フキノトウ（アキタブキ）

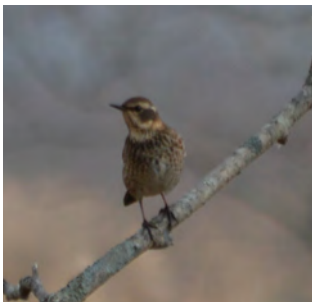
～温根内探勝木道周辺の野鳥～

カラ類は群れを作り、北方からツグミもやってきました。木道を歩くと編隊で上空を南へ向かうオオハクチョウがとてもにぎやかです。木々は葉を落とし、温根内周辺の森は見通しが良くなりました。バードウォッチングには良い時期です。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出ししています。お気軽にご利用ください。

【ゴジュウカラ】 五十雀
ゴジュウカラ科　　留鳥
逆さまで木に止まるのが得意なゴジュウカラは他のカラ類とともに混群で周辺を移動します。（北海道は亜種シロハラゴジュウカラ）

【コゲラ】 小啄木鳥
キツツキ科　　留鳥
カラ類の混群とともに移動する姿がよく見られる小さなキツツキです。「ギー」という声が聞こえたら探してみましょう。

【オオハクチョウ】 大白鳥
カモ科　旅鳥（一部越冬）
温根内では上空を編隊で通過する姿が見られます。周辺の湖が凍る12月中旬くらいまでは見られ、解氷面がある場所では越冬する個体もいます。



【ツグミ】 鶫
ヒタキ科　　冬鳥
温根内には越冬の為、大陸から渡ってきます。鶴居軌道跡で木の実や水生昆虫を食べる姿が見られますが、厳冬期は数が少なくなります。

〇温根内探勝木道周辺で観察された鳥（10 月 15 日～ 11 月 14 日）※和名は日本鳥類目録第７版の順
■ヒシクイ■マガン■オオハクチョウ■マガモ■アオサギ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■ハイタカ■ノスリ■フクロウ■コゲラ■アカゲラ■ヤマゲラ■モズ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■ツグミ■セグロセキレイ■ビンズイ■カワラヒワ■シメ■アオジ■オオジュリン

☆☆☆コラム 「温根内周辺の外来種　①」 ☆☆☆

温根内ビジターセンター　指導員　本藤泰朗

鶴居軌道跡で見つけたカブトムシ

今年８月、温根内周辺では初めてカブトムシが採取されました。しばらくビジターセンターで飼育し、総合的な学習などで訪れた小学生たちに見せると、「すごい！」「カッコいい！」「触らせて」など反応は様々。そういう私も鶴居軌道跡でカブトムシを発見した時は少し興奮しました。栃木県で育った私は小学生時代、夏休みになると朝早くから近くの雑木林に出かけ、樹液に集まるカブトムシやクワガタを採って観察し、家に持ち帰って飼育したものです。カブトムシを見た時の子供の反応は本州も北海道も同じだなと思いました。

外来種とは、国内外を問わず、人間活動によって自然分布生息域外（元々生息していない場所）に持ち込まれた生物のことを言います。日本国内の自然環境下で生息・生育が確認された国外由来の外来種は明治以降に持ち込まれたものだけでも 2,000 種以上と言われています。2005 年には「外来生物法」が施行され、外来種の中でもとくに生態系、人の生命・身体、農林水産業に悪い影響を及ぼすものを「特定外来生物」に指定し、飼育や保管、運搬、販売・譲渡、輸入、野外へ放つ行為などが厳しく規制されています。2015 年現在、１科１５属９１種、３交雑種（１１０種類）が指定されています〔環境省 HP より〕。

セイヨウオオマルハナバチ（湿原内、特定外来生物）

鶴居軌道跡でカブトムシを発見した時、少し興奮したと同時に「ついに来たか」とも思いました。というのも、カブトムシはもともと北海道には生息しておらず、飼育するために本州から連れてこられたものや飼育・養殖したものが野外で繁殖し、北海道中に広まっていった「国内外来種」なのです。もともと北海道にいなかった昆虫のなので、広まると在

来の昆虫と競合し、棲み家や餌場を奪ってしまう可能性があります。鶴居村の酪農家の堆肥場は冬でも暖かく、越冬するカブトムシの幼虫がたくさんいるという話は聞いていましたが、堆肥場のない湿原周辺は冷涼な気候のために冬を越せず、定着しないと思われています。今回発見したカブトムシは、たまたま周辺の生息地から飛んできた可能性が高く、仮に居ついて卵を産んだとしても、冬の寒さのために幼虫が冬を越せず、温根内で繁殖が成功する可能性は低いでしょう。とはいえ、今後注意深く観察していかなければならない存在です。

ここ温根内は釧路湿原の西の端に位置し、湿原とその周辺の丘陵地の境目にあり、湿原環境の変化が最初に現れる場所でもあります。湿原内は水浸しの特殊な環境なので、外来種もそう簡単には勢力を広めることはできませんが、チャンスがあれば湿原に侵入しようとしている最前線の場所なのです。　〔来月号へつづく〕

☆☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆☆
「ザリガニウォッチング２～ニホンザリガニ編～」

10月18日（日）、NPO法人環境把握推進ネットワークの照井滋晴氏と前田潤氏を講師に、ビジターセンターの周辺に棲むニホンザリガニ（絶滅危惧Ⅱ類）の生態を学ぶイベントを開催しました。

はじめにニホンザリガニの生態や減少している原因などの話があり、その後に外来種のウチダザリガニやアメリカザリガニとの比較や脅威について、クイズを交えながら楽しく学びました。

レクチャー後は、実際の生息地を観察し、ニホンザリガニの捕獲を試みました。残念ながら捕獲することはできませんでしたが、それでもカエルや魚、昆虫など、水の中にたくさんの生きものを見つけ、ニホンザリガニの棲む豊かな水環境を実感しました。　参加者：９名

☆☆☆☆イベントのご案内（12月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター　⇒お申し込み☎0154-65-2323
♪初冬の湿原ハイク～植物の越冬作戦を探る～
〔日時〕12月６日（日）10：00～12：00　〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料　〔場所〕温根内ビジターセンター
これから本格的な冬を迎える釧路湿原。全てが枯れてしまったように見える湿原では植物たちが様々な方法で厳しい冬の準備をしています。そんな植物たちの越冬作戦を観察します。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003
♪クリスマストピアリーを作ろう
〔日時〕12月５日（土）13：00～15：00　〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕５００円（材料費）　〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター
松ぼっくりを生かしたトピアリーを作って、クリスマスを演出しましょう。

～冬季開館時間について～

冬期間（11/1～3/31）は開館時間が変更になります。冬季開館時間は10:00～16：00です。ビジターセンターご利用の際にはご注意いただけますようよろしくお願いいたします。なお、冬期間は日没が早いため、木道をご利用する際は時間に余裕を持って暗くなる前にお戻りください。街灯等は一切ありませんので、真っ暗になり危険です。

月刊　温根内通信　№230
発行：釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター
〒085-0036　北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323　Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@hokkai.or.jp
ホームページ：http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/
Facebook：https://www.facebook.com/Onnenai.VC
開館時間：10:00～17:00（11月～３月は16:00まで）
休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）　入館無料